

## 会 議 録

会議の名称及び会議の回	平成 26 年度 第 2 回飯田市公民館運営審議会
開催日時	平成 27 年 3 月 26 日（木） 15:00～17:15
開催場所	飯田市公民館 2 階展示室
出席委員氏名	湯澤英範委員、近藤陽子委員、小林賢二委員、武分祥子委員、増田綾子委員、原亮弘委員、長谷部三弘委員、桑原利彦委員、木下陸奥委員、黒澤誠委員、小林敏弘委員、木下紀委員、嶋岡一蔵委員
欠席委員氏名	今井俊文委員
出席事務局職員氏名	吉澤之榮飯田市公民館長、平田睦美飯田市公民館長会副会長、木下巨一副館長、堤幹雄学習支援係長、木下慎一郎管理係長
会議の概要	以下のとおり

### 1 開会（市公民館副館長）

これから平成 26 年度第 2 回飯田市公民館運営審議会を始めます。議事に入るまでは、市公民館副館長木下が進行します。本日は、14 人の委員のうちの 13 人の参加で、過半数以上に参加いただいており審議会は成立します。

### 2 運営審議会長あいさつ（長谷部会長）

彼岸になってだいぶ温かくなりました。

本日は、簡略に要領よくやっていただきたいと思います。

### 3 飯田市公民館長あいさつ（市公民館長）

平成 26 年度を振り返って、3 つお話しさせていただきます。

まずは、2 月 15 日に開催の第 52 回飯田市公民館大会が盛り上がったこと。昨年大雪で中止だった第 51 回の分を取り戻すかのようなものでした。参加者も 603 名と大勢でした。自分たちの第 3 分科会のテーマは「子どもを育む地域の力」準備会を 4 回取り、話題提供者にも来ていただきました。館長、主事とも準備会の中で熱心に考えを出し合いました。当日のグループワークは発言が続きました。終了後は満足感がいっぱい、自然にご苦労さん会をやろうのという話になり実現しました。

2 つ目は、大切な懇談会が 3 つ持てたことです。人形劇フェスタ実行委員、市議会社会文教委員の議員、教育委員さんとでした。それぞれにテーマを定め、実践事例発表を大事にしました。公民館と館長の役割の重要性を理解してもらえたように思います。

3 つ目は、活動の重点の一つである「飯田市小中連携一貫教育を支える」ができたことです。現在、多くの館長が学校評議員に選任されています。地域の学校を謳う小中学校が増えています。学校と地域とのパイプ役を公民館が担い、学校も公民館を頼りにしています。

飯田市公民館長の仕事について触れます。力不足でしたが、精一杯やりました。諸団体、役職等の役割分担があります。オーケストラとともに音楽祭実行委員の委員会の委員でした。交流イベント部会の一員として実行委員会と部会への出席、オケとも音楽祭の準備、チケットの販売、交流会の設営等がんばりました。市民大学講座の運営委員の役もありました。年 5 回の委員会と 8 回の講座に前向きに取り組みました。来賓としても多く呼ばれました。最

後に定例館長会のことです。事例発表を取り入れるようにしました。ここ2、3年は研修の場になっています。研修旅行は、「災害復興の現状に学ぶ」が3年続き、チームでしっかり報告をしています。公民館コーラスグループ発表会に館長会で発表するようになり、参加者に喜ばれています。

平成26年度の公民館活動の報告と、平成27年度飯田市公民館基本方針（案）及び、事業計画（案）に関わって、基本方針と事業計画はほぼ同じです。だから、より大事に考え重点目標を確実に達成させることがポイントになります。よって、責任はより重くなります。後ほど堤係長から説明がございます。公運審の皆様、しっかりご審議いただき適切なご指導ご助言をお願いします。

市公民館副館長 第1回の委員会に武分祥子委員さんと増田綾子委員さんがご欠席されていますので、自己紹介をお願いします。

武分委員 飯田女子短期大学の看護学科の方に勤めています。第1回は、仕事と重なりまして欠席して申し訳ありません。大学から行くように言われた背景には、専門が社会学ということがあるかもしれません。飯田にはお世話になっていますが、知らないことがたくさんありますので、学ぶつもりで参加させていただきます。

増田委員 NPO法人くらりnetの増田と申します。市民活動団体の皆さんを支援するNPOで10年ほど活動しております。公民館とNPOの連携につきましては、いろいろな可能性がある中で、なかなか踏み出せない部分もございますけれども、協力できる部分があれば、ぜひと考えております。

#### 4 審議事項

##### (1) 平成26年度の飯田市公民館の概要について

##### ア) 飯田市公民館及び20地区公民館事業

事務局 当日配布資料に基づき内容説明

長谷部会長 一般的に公民館というと、建物があり職員がいて、職員が企画した講座などに市民が参加する、あるいは施設を貸し出しただけということが、飯田のように分館など自治公民館を含めると3千人が参加をするというここに大きな広がりを感じながら説明を聞いた。単なる集会施設だけでないこの飯田の公民館の特徴は、その他の地域にも普通にあることなのか。

市公民館副館長 飯田下伊那地域は、飯田と同じような形で地域の住民の方たちが事業の企画や運営を行う専門部、特に新聞を作る広報部とか新聞部という活動があり、盛んだと理解しています。分館に関して言うと、信州、長野県全体が飯田に限らず盛んで、条例に設置されていないが実際に存在しているものも入れて、長野県内で4千あります。全国の社会教育調査で公民館というのは1万8千しかないもので、47都道府県あるところで1万8千なのに長野県の中に4千分館があるという、これが信州らしさです。特に飯田下伊那は、分館に加え専門委員会で住民の方が自分自身で事業を企画しており、そこが一番の学びになっていることが特徴です。

木下（紀）委員 資料の中で理事者の言う公民館がガラパゴス化しているということは、旧態依然として変化がないということを言うのか、あるいは進化しておると言っている

のか。

市公民館副館長 後者です。飯田の活動は他地域に比べてもがんばっていると認められていますが、1つだけがんばって進化してほかの公民館と差異ができすぎると、飯田が特別な存在として孤立してしまうので、孤立しないような状態を作るべき。公民館に限らなくて、公民館のような活動を一生懸命やっという自治体と連携して、他の自治体に飯田の公民館の仕組みとか考え方を輸出するような取り組みをもっとやろうという宿題をいただきました。

木下（紀）委員 旧態のものから脱するという事は、例えば行政依存とか上から目線とか前年踏襲ということから、市民の立場とか住民の参加とか住民に巻き込まれるというような住民主体の活動の方へ展開をしていこうじゃないかと思う。東大の郷土調査学習で東野や千代で見られたもの、川路の通学合宿や遠山の取り組みなど、住民主体の活動の方へ脱皮していくことがガラパゴス化からの脱出というように解釈したが、それは間違いか。

市公民館副館長 飯田はがんばっているという前提があり、飯田のような取り組みを、ほかの地域にも広げていくべきだと言っています。但し、本家本元が本当にこれでいいのか、型は出来ているが、本当に志や中身がしっかりしているかという事を他の自治体との交流の中で振り返ることが必要だと言っています。そうした時に木下委員が言われたように、住民が主体だと言っているが、本当に主体になっているのか、もう一度見直すことが必要であり、東野と千代の地域調査を東大と一緒にやったことやムトス大学で遠山郷の2地区が若い人たちを上手に結び付けていったという取り組みなどをもっと掘り下げて広めていくためには、自らをもっと高めていけという意味合いで、全体としては叱咤激励と捉えております。

木下（紀）委員 これは公民館の運営に関する基本的な問題なので、運審でもこの点は重視して、今言われたような方向で活動を推進することを希望します。

嶋岡委員 東京大学の調査の報告について、私は千代在住でアンケートを時々頂きますが、調査に応じたことによって、地域の皆さんが公民館はどうあるべきかということを考えるチャンスになったようです。回収率を見て「おやっ」と思ったことは、従来と違いまちづくり委員会から依頼があつて、区の集会で「いつまでにアンケート集めるので書いてください」とお願いした経過があり、私はたまたま小さな地区のまとめをする係をしていますが、回収にまちづくり委員会が入って公民館と上手に連携していると感じました。もう一つ感じたのは、現在まちづくり委員会で活躍している皆さんのかなりの方が、かつては公民館を経験した方で、その時に経験したことを受けて、今度は俺らがきちんとやっというかにならんぞというように地域の人材が育ってきた結果、あのアンケートに協力することになっているのかなということ、当事者であり地区住民の一人として感じました。

学習支援係長 その件に関してはおっしゃるとおりで、東野、千代、両地区ともまちづくり委員会の皆さんと配布から回収まで相談させていただきました。12月に行った報告会にも、公民館委員はもちろん、まちづくり委員会の正副会長さんにもご参加いただいて一緒に議論を行いました。

市公民館副館長 補足ですが、南信濃と上村で行ったアンケートは、字が書ける人は全員とい

う意味で小学生以上を対象として行い、千代、東野で一家に2枚配ったのは、大体1枚だと男の方が戸主として書くだろうから、若い世代とか女性の声を拾うには2枚にした方がいいぞと、そうしたことで両地区ともアンケートを書くために家の中で話をするということ起こったようで、アンケートがただのアンケートで終わらずにその後につながりました。

嶋岡委員 配られたときは、面倒だなという雰囲気があったが、今はやって良かったなあという感じです。

市公民館長 本当に大勢の委員で公民館活動が成り立っているというのを改めて感じます。羽場に限って言うと、館長推薦で続けて頂く人は少なくなり25、26年度では、育成委員会の方は全員が入れ替わりました。心配な面もありましたが、かえて新しい人たちが本気になって考え、前年の踏襲ももちろん多いわけですが具体的にどうするかとまとまりよくやった。今度改選ですが、正副委員長さんは「面白かった」「もう1期ぜひやりたい」と、これは本当にありがたいことです。平日に委員会ができないので、土日のどちらかで工夫してやろうなど莫大な人が広がっていった一緒にやっていると改めて感じた次第です。

## イ) 館長会・主事会事業

事務局 事前配布資料及び当日配布資料に基づき内容説明

長谷部会長 定例主事会というのは、事務連絡的なことが多いのですか。

学習支援係長 事務連絡的な事項は、午前中に行います。その後、プロジェクトの情報交換をして共有をします。午後は研修の時間です。

木下(紀)委員 前回の配布資料との関係をお聞きしますが、前回の事前資料として配られた解体新書塾の資料がありますね、あの流れを見ると、主事のあり方がテーマであったような気がします。住民への接近力とか、住民に巻き込まれる力をいかに身につけるかというような方向の研修だったと思いますが、その流れが主事会の中へどう位置づいているか、主事会との関係は、どうあるかという質問です。

市公民館副館長 解体新書塾という名付けをいただいたのは、長谷部会長さんです。飯田で例えばエネルギーの地産地消の取り組みとか体験教育旅行で年間1万5千人くらい飯田にやってくるなどの取り組みが盛んに行われるのは、土台に公民館活動があるからではないかということをお大学の先生が仮説を立て、特に主事というものがどういう役割を果たしておるかということをお研究したいという相談が何年前からありました。そこで、解体新書塾の最初のテーマを公民館主事とか自治体職員がどういところで力をつけていくかということについて研究会をしてみようと。要は自治体の職員が持つべき力というテーマでやったのが1回目の解体新書塾です。その記録は前回お配りしたとおりでした。10月18日から20日の運動会や文化祭の準備で忙しい時期で主事も通しで集まるのが難しかったが、7割位が少しの時間でも顔を出してくれました。飯田の主事が当たり前に行っている姿に、特に尼崎の方は仰天して住民への接近力、巻き込まれる力というものが、自治体職員に必要なだという思いを強く持って帰っていき、飯田の経験を尼崎でどうやって具体的に、尼崎な

りの公民館的な活動とか、職員のあり方を進めていくかを考えるための集会を2月11、12日にやったという展開です。尼崎のその熱い志を飯田の人間が学んでみようということで、飯田から主事が7人、一般行政の職員が6人参加して、相互に職員同士が研鑽するという展開につながっています。飯田の主事にとって、飯田でやったことも尼崎へ行ったことも、地元の振り返りができています。解体新書塾は、最初は自治体職員の力量形成というテーマでやっており、自分のやる気スイッチが入った職員たちが何人もいます。次は松本へ行くという話もあります。今後は東大調査とかムトス大学のような感じで、もっと深くもっと地域の現場の事例の中に入り込んで地域課題の学習会とか専門委員会の会議の現場と一緒に傍聴してもらい飯田の人たちの熱気を感じてもらおうとか、公民館大会に来てもらい学んでもらおうとか、いろいろなやり方で次の解体新書塾の企画の方を講じていきながら、外から来た人たちが刺激を受けて帰ることと併せて、そのような人たちと交流することで飯田の人間が刺激を受けて、自分の活動の振り返りにしていくという、両方の高め合いを狙っていきたいと思います。

木下（紀）委員 いずれにしろ、解体新書塾に見られるような流れは、公民館活動の基本理念の一つの住民参画の原則の実現でありますので、ぜひその方向も重点的にというか、気を回しながら進めていっていただきたい。

桑原委員 東大の調査でも感じますが、どうしても行政サイドからの研究に寄りがちに見えてしまうので、もう少し委員さんなどに積極的にシフトをしてもらうということもありと思います。主事会のあり方も大事で、先ほどから住民が中心というが、私は少し違って、行政側と住民は対等でないと、両方があって始めて成り立っているのが飯田の特徴的だと思う。ほかの地域は、対立構造になりがちで、二人三脚ができていることは非常にいい形になっていると思う。それを考えると周りから評価されるときには地域の人たちが、もっとしっかり評価されることが外に見えてこない、地域の人たちが逆に自分たちは行政の下でやっているみたいな意識を持たれてしまう気がする。意識的にそういう出し方をした方がいいと思います。

## ウ) 主事会プロジェクト事業

長谷部会長 主事会プロジェクトですが、地域で抱えている課題は、少子高齢化、過疎化、限界集落、今地域でどう生きていくかという課題を抱えているわけで、主事会でそういう問題も是非取り上げて欲しい。高齢者が増えていくわけだから、どういう元気のある高齢者を作るかということも、今の限界集落に対する対策でもある。子どもも大事だが、今生きている、元気で暮らそうとしているところへ、公民館がどうアプローチして関わっていくか、これは福祉の問題も含めて地域で対処しなきゃならない課題について、主事たちがどういう認識を持つかということも大事なことだと思う。ぜひその側面も要望します。

桑原委員 地域人教育のことです。OIDE長姫高校の生徒さんが来てくれるということで、地域の人たちがかなり頼りにしています。とても楽しみにして子どもたちを受け入れています。OIDE長姫の先生と話しをした中で、地域人教育を始めてから、こ

ここに就職したいとかいずれは帰りたいという子たちが非常に増えたといえます。長谷部さんの話を聞いて一番の問題は過疎化であり人が少なくなっていて、ほかの地域から人を呼びたいということで一生懸命働きかけますが、一番大事なのは、高校生たちが出ていずれ帰ってくるという子たちを増やすことだと思うと、その観点から見て、地域人教育にもっと力を入れてもいいと思います。先ほど提案のあった高齢者がどれだけ元気に暮らすかということも高校生と一緒に研究させたらどうか。高校生と話をすると何が一番楽しいかということ、生身の人たちと出会い近い関係になること。おじさんやおばさんと仲良くなることで、この人たちのために役立ちたいなという思いが非常に強くなると思います。主事会の勉強会で、昨年高校を卒業して市役所へ入所したという女性が講師として来ていた。彼女は、地域の人たちと竜峡小梅の研究をしたときに、関係するおじさんおばさんと話をしてこの地域で働きたいと思いい市役所を希望したと話していましたから、市と県が管轄している高校というものを結びつけたというのは、画期的な取り組みだと思う。ほかの学校にも地域の取り組みを提供して興味を持って学習の中に入れてもらえれば、地域にいずれ帰ってくれると思います。

小林（賢）委員 「華齢なる音楽祭」といって、出演者が60歳以上と限定した音楽祭をここ2年くらいやっています。OIDE長姫の生徒たちが受付だとか駐車場の整理などを積極的にやってくれており、大きな戦力になっています。今年も3回目を計画しているのですが、老人と若者が接点を持つことをテーマとして考えています。

市公民館副館長 最初は一部の先生のみ一生懸命でしたが、ほかの先生にも波及していきました。地域とのかかわりを持つことによって、生徒がとても成長していくという姿を先生が実感できるようになり、先生全体のやる気が前面に出るようになってきたことで、地域をつなげる公民館の役割が発揮できるようになりました。ある程度地域に定着してきたようなので、主事会のプロジェクトというよりは、地域ごとのつながりという形で、長姫高校の商業科についてはおさえていながら、山本地区の阿智高校と連携した取り組み、上郷の飯田高校や飯田女子高校と共同した取り組みなどが始まりました。長姫高校が一つのきっかけになって、他校への広がりができていることを考えると、若い世代の、特に高校生たちを地域と結びつけるというところを公民館としては力を入れていきたいとともに、少子高齢、人口減少の問題も高校生たちと一緒に考えていく仕掛けも含めて、主事たちの次年度の計画の中で話していきます。

市公民館長 キャリア教育フォーラムに毎回参加していますが、今年は最後のフリートークのテーマが「人口減少」でした。中学生がどんどん自分の思いを話すのですが、とても前向きな考えです。地域文化を大事にしたい、地域は自分が生まれ育ったところだから出て戻ってきたいとか、地域の良さがとてもわかったとか、本当に体験学習して生まれてきた言葉だと思いました。アンケートには、こういう話し合いを大人の人にたくさん聞いてもらいたいと出しました。人形劇場は定員で一杯だと思います。文化会館とか県の文化センターなどで開催することが大事ではないか。子どもたちにも、そういう考えが行き渡っていて、その気になればかなりのことを考えている。高校生だけではなくて、そういうのと結びつけられないかと思っています。

湯澤委員 地域人教育は高校生を対象に展開しているようですが、座光寺の場合、中学生の存在というのは非常に重要で、中学生にいかに参加してもらおうかと腐心している。小中連携・一貫教育も絡めて何とか展開しようとしてきている。苦労している状況ですが、地域人教育を中学くらいまで下ろして展開するという考え方はないのですか。

市公民館副館長 吉澤館長からお話あったとおり、キャリア教育は小、中、高校生と自分の人生設計を考えられるような、職業教育というよりも生き方教育というようなことを小、中、高としっかり作っていくことを県の教育委員会も飯田市の教育委員会も同じように持っていて、小中連携一貫教育の中に上手に組み込んでいうことは必要だという考えは持っています。ただ、西中学校区というのはもともとモデル校として長くやってきた成果が今花開いていますが、他校にはまだまだ浸透しきっていないということもあるので、地区としての取り組みをもう少し進めていけるように記録して伝えていきます。

湯澤委員 地域づくり委員会の我々がいろいろ考えても、なかなかアイデアが出ないので、いい事例をどんどん浸透させていただきたい。例えば災害が起きたときに中学生のパワーというのは、我々以上に有効な力になるが、それをいかにして地域の力に取り込んでいくかということが、我々の一番の狙いですが、学校にとっても地域から子どもが慕われるということは教育上良いというようなことで、話を進めているが、そこからもう一歩出ないという現実があるので、この地域人教育の成果からもう少し広げるような努力をやっていただければと思います。

小林委員 特にプロジェクトの事業というのは、公民館主事を育てる意味においては、すばらしい事業だと思います。一方でこれが面白くなり地区の公民館で「公民館主事はいつ行ってもいないじゃないか」となっても困るという二面性があると思います。長谷部会長が言ったように、地域の存続する高齢者、少子化という問題にも触れて欲しいが、プロジェクトにかかわる時間が増えすぎると問題もまた出てくると思います。今、公民館主事の在籍年数は、平均で何年くらいになっているか。

市公民館副館長 東大との共同調査でも調査しています。平均5.2年で昔も今も変わってない。21人の主事が毎年4人ずつ交代していくということになります。最近は短いかと聞いていたら、変わりありませんでした。プロジェクトをやり過ぎて地域のことを忘れてはいけないことは、そのとおりだと思っておりますが、そこで主事同士が連携してやった研究とか活動が、自分の地域にきちんと返ることが最終目的という指導をしています。主事が公民館のイスに座っていない時は、公民館委員の方とか地域の方とかいろいろな場所へ歩いて回っていることだったら、職場の中でも認めていただければと思いますが、課題だと捉えております。

小林委員 前回のときの資料の中に、公民館主事は必要ないというような論議もされたというようなことが書かれてあったわけですが、主事してみると非常に残念なことだと思います。「いつもいない」と「そんな者はいない」というような論議も出ると思います。地域づくりは自治振興センター長が一生懸命やっております、主事も同じことですから、理解を深め合っていくしかないと思います。

木下（紀）委員 公民館主事の平均年齢が32歳という記載がありましたが、柔軟性を持ってエネルギーに活動できる一番いい年齢だと思います。公民館がこの人事構成にな

っていることは、すばらしいことだと思います。難しい地域課題に対してこのエネルギーで何とか突破していただきたい。

市公民館副館長 時間外勤務も飯田市役所の中で突出して多ので、これ以上、体を酷使してやれとは言いづらいですが、各自と1年に4回は30分程の面接をしています。みんなやる気を持って仕事をしているので、この経験を次の職場でも生かして公民館的な仕事をしていくようにと毎年送り出しています。

原委員 市の職員で公民館を経験するのは何割ぐらいか、参考に教えていただきたい。

市公民館副館長 一般行政事務職として採用された職員は400人位と思いますが、公民館主事経験者はその中で100人以上いるので、2、3割くらいは公民館の主事を経験しています。日本の自治体の中でも、きわめて多い数字だと思います。主事を経験した職員が、ほかの職場でも地域の人と密接して良い仕事をするには間違いなくあります。

## (2) 平成27年度飯田市公民館基本方針(案)及び事業計画(案)について

事務局 当日配布資料に基づき内容説明

増田委員 着地研究会というのが事業計画にあります。どんなことを想定されているのか、お聞きしたい。

市公民館副館長 2年前のこの運営審議会で長谷部委員さんから、若者の社会参加に力を入れる一方で、高齢期を迎える世代が定年退職後に地域の中で活躍できるような、そういうことを学ぶ場を作るべきであるという意見を頂戴して事業化したものです。こういうことを自分でもやってみたいという願いを持った職員を社会教育コーディネーターという立場で雇用して、今年度は元気に活動している人たちのところへ会いに行くということで、千代の太田農園の太田いく子さん、竜丘公民館OBが集まって休耕の畑にそばを植え成人式などいろいろな催しのときに蕎麦打ちをして振舞う活動をしている人など元気な人たちに会いに行きました。来年度は現在20人くらい居る仲間を増やして、自分たちがどういう活動をしていったらいいか活動プランを考え、実現していくことを平成27年度の中で始めていきたい。そのときには、増田さんにもご相談させていただいて、すでに元気で活躍しておる人のところへ結び付けていくことが当然あると思うし、あと若い人たち、地域おこし協力隊みたいな人も含め、若い人たちと結びつけていくアイデアなどが出ているので、そういうときにはぜひ相談に乗っていただければと思います。

## 5 その他

(1) フィリピン・レガスピ市への訪問団派遣について

(2) 未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究集会 尼崎大会について

(3) 平成27年度の公民館職員体制について

事務局 事前配布資料及び当日配布資料に基づき内容説明

長谷部会長 全体を通してでも良いし、今のことで良いですが、何かご発言があったら。



武分委員 フィリピン訪問団派遣や尼崎市との交流の話がありましたが、具体的に飯田市の公民館で今後考えなければいけないことなどがあれば教えていただきたい。

市公民館副館長 フィリピン訪問団派遣の件ですが、特に現場は本当に若い人たちが元気で活動していたが、飯田の公民館はどちらかというと年配の人たちの活動になっている。もっと若い人たちが公民館の活動に参加できるようなつながりをどうやって作ったら良いかということ課題として帰ってきました。尼崎市との交流では、飯田の公民館は仕組みが出来上がっているけれども、仕組みに安住して活動としては形骸化しているということはないか。逆に尼崎市はこれから作っていくという、フィリピンもそうだが、エネルギーみたいなものががんばらねばいかんという、責任感みたいなものを尼崎の職員から感じ取ることができました。交流を通して自分たちの活動の振り返りができました。詳しくは資料の中に個々の感じ取ったことで特に一番ここ大事ななと思ったところをアンダーラインで触れさせていただきました。

嶋岡委員 公民館大会で第6分科会に出たが、高校生が出てきてあの分科会のムードを持ち上げた。司会が上手で、テックレンジャーも登場してみんな喜んで雰囲気もう全然違っていた。若い世代が入ると違う。これからもどんどん入れた方がいい。

桑原委員 参加させるにあたり、「どうしようか」という話が出ました。先生は生徒たちが出て「しゃべれないかも」と言いました。「そんなことないじゃないかな」と出てみたらあの様子でよく喋って、自分たちのPRもしっかりして、あの子の委員の感想は、「高校生をなめてはいけないね」と。場所を与えてあげればいくらでもできる。だから積極的に活用してあげれば良いと思います。

原委員 先日、八丈島で行われた離島というか島のサミットに参加して感じたのは、女性が元気に進行したということ。若い人プラス女性だなあと思う。宮古島の方、淡路島の方どちらも女性です。大学の先生もいましたが、やっぱり女性が圧倒してしまいます。宮古島のある方は、そこに参加していた人たちの泣かすほど感動的な話をしました。やっぱり色が黒っぽいのはよくない。もっとカラフルにならんといかんというのを感じてきました。

近藤委員 上郷で基本構想というものを作りました。上郷には風越高校、飯田女子高校と飯田高校があります。その子どもたちにいろんなことに参加してもらおうとしました。上郷フォーラムや市政懇談会で中学生が発言してくれました。そういうことが基本構想に組み入れられているので、これから期待しています。

市公民館副館長 飯田高校生の天文班が天文講座を2回実施、競技カルタ班がカルタ講座を子ども対象でやってくれた。飯田女子高の郷土料理を楽しむ会で、今度お祭りに出てくれるとか。

近藤委員 おやきの郷土料理を考える会を立ち上げて一生懸命やっています。

長谷部会長 フィリピンのタイサン村に公民館を輸出するということで私も行ってきました。公民館という名前をそのまま使っており、名前が輸出されたというという意味と私もそこから何を学んだのかということがあると思います。この会は交流と学びの会という名前だが、交流が学びにつながり、学びが交流につながる。フィリピンのレガスピ市と飯田市が交流することで、相互が学ぶ。13ページの報告で飯田市がレガスピ市から学ぶものは何かを書いてあるが、草創期の公民館に比べ今は社会が成

熟していろいろなことができるようになり、組織未加入の問題とか役員の忌避とかというお任せ主義が公民館だけでなくどこの組織にも蔓延しているが、フィリピンでは自分たちで一生懸命作っていきこうとしており、いろいろな発展の可能性を持っている。このことを見て、私どもが当たり前と考えてきたことを少し考え直す必要があると感じた。もう一つは公民館主事を経験した職員があちらに行ったが、公民館で学んだことが役所内の他のセクションに行ったときに、どれだけ役立つかということを実感として感じた。農業部門で行った職員が、公民館でやってきたこと、マネジメント事業でやってきたことがこれから発展する途上国のところで役立つ。そういう意味では公民館の体験が生きる。よその職場に行ったときに生きているという感じがしたのは、尼崎の資料を見ると、ほかのセクションの職員もたくさん言っている。尼崎の資料を見て公民館が大事だということを感じる職員がこんなに多いのかと思いました。

## 6 閉会

木下（陸）副会長 飯田市には、公民館が住民のためにあり、地域のためにあり、住民が活動をして、地域をより活発にしていくという形が出来上がっていると思います。館長会の問題は来年度に向けて館長にしっかりと残して伝えていただいて、私たちは応援してまいりたいと思っています。ご苦労様でした。